

様式第7号（第21条関係）

番 号
令和7年6月30日

佐賀県県民協働課長 様

住所 佐賀県佐賀市西魚町71-3
団体名 一般社団法人こども宅食応援団
代表者職・氏名 代表理事・駒崎弘樹
電話番号 080-4417-7361

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和6年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和6年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団体名 : 一般社団法人こども宅食応援団
- 2 事業実施期間 : 令和6年4月1日 から 令和7年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

令和7年3月31日時点で佐賀県内のこども宅食実施団体は19団体となり、佐賀県内の自治体カバー率は55%と多くの市町でこども宅食が利用可能な状態となった。しかし、対象となる世帯を生活困窮家庭や社会的孤立下にある親子と想定した場合、すべての親子の「助けて」にリーチできていない状況ではない。また、立ち上げから間もないこども宅食実施団体が、安定的にかつ成果のある活動へとステップアップしていく必要性もある。

このような県内状況の中で、こども宅食応援団が佐賀県内のこども宅食団体の立ち上げや伴走支援をさらに強化することで、より多くの親子へ支援を届けることができる。そして、そのような親子に食を届けることで生活を助けるだけではなく、親子とこども宅食実施団体が双方向のやり取りができる関係性を築き、孤立と孤独を和らげ、虐待の予防へとつなげていくことができると考える。

また、こども宅食をきっかけに、公的な支援やこども宅食以外の支援も受けることができるようになる認知の変化が、より多くの親子に生まれることを後押しし、誰もがお互いに支え合える地域をつくることに寄与していきたい。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

①佐賀県内での事業実施に向けた周知・啓蒙と立ち上げ支援

- (1) 「こども宅食」の趣旨を理解した団体が佐賀県で新たに2団体立ち上がり、より多くの親子への支援を行き渡らせることができた。
- (2) 日頃から行政、関係者などからの情報収集、イベントでの周知活動を行い、立ち上げを希望する団体への速やかな声かけと立ち上げ支援により、県内の団体が安心してこども宅食を始めることができた。
- (3) 佐賀市での「こども宅食赤ちゃん便」事業のモデル的な取り組みでは支援世帯は30世帯に拡充し、他市でも同様に取り組む団体も増えた。また、行政をはじめとする関係機関との連携体制も充実し、特定妊婦のサポートや乳幼児期の虐待リスクの低減へとつなげることができた。

②佐賀県でこども宅食に取り組む実施団体にとって有用なノウハウの共有と伴走支援

- (1) 勉強会や日頃の情報発信などを通じて、佐賀県内の実施団体がより成果のある活動へとステップアップできるように努めた。
- (2) ネットワーク加盟団体同士が連携を深めるための交流会、団体同士がノウハウを提供できる研修会の場づくりを行い、実施団体同士の視察や物資の融通などの動きを生み出すことができた。

③社会課題・各地の活動状況の発信とふるさと納税のためのファンドレイズ

アニュアルレポートの発送、記事発信などを通じて寄付者・一般市民のこども宅食に対する認知度向上を図り、目標達成へとつなげることができた。

④事業継続に向けた環境整備および他の全国組織や企業との連携

- (1) 県内食品企業と団体をつなぐなど物資調達へのサポートや個別の伴走支援を通じて、県内のこども宅食実施団体が1団体も活動を辞めることなく継続することができた。
- (2) 佐賀県食でつながるネットワーク協議会で、さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会やフードバンクさがなどの他中間支援団体と共に毎月1回程度農作物をはじめとする寄付品の受取りと実施団体への分配を行い、支援が必要な家庭に届けることができた。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

・佐賀県内におけるこども宅食の立ち上げ支援や周知・啓蒙の在り方をモデルとし、全国におけるこども宅食の普及が進み、全国のこども宅食実施団体が地域共生社会の一躍を担えるようになる。

・佐賀県内において、こども支援・食支援などを行う他団体との連携モデルとし、県単位におけるネットワーク・コミュニティ形成の在り方の解析度があがる。佐賀県でこども宅食の立ち上げをはじめとするコーディネーターの役割をまとも全国に共有することにより、こども宅食を中心とした地域連携モデルの考え方が浸透し始めている。

・佐賀市内においてモデル的にモデル的に取り組んでいる「こども宅食赤ちゃん便」の全国普及により、産前産後の孤立や虐待などのリスクの低減へとつなげる動きが全国的に高まっている。佐賀県のモデル事業に関する事例共有などを中心とした赤ちゃん便全国勉強会も実施し、医療、保育、教育の分野との連携モデルとなる動きも高まり、全国的に展開されは始めている。

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業（GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載）

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位：円]	うち寄附金 活用額 [単位：円]
①佐賀県内および全国各地での事業実施に向けた周知・啓蒙と立ち上げ支援	1. 佐賀県内における普及 ①目的 ・佐賀県での「こども宅食」の認知度向上 ・こども宅食実施団体の地域内での活動の認知度向上 ・佐賀県での関係団体（児童福祉関係団体、行政、NPOなど）との関係性構築 ②対象者 県内のこども宅食実施団体、社会福祉協議会、児童家庭支援センター、こども食堂実施者、フードバンク事業者、居場所事業者、こどもの学習支援事業者、母子会、病院、学校、保育など ③実施内容 a. 佐賀県内自治体・社協への事業説明 佐賀県こども家庭課家庭支援担当 佐賀県県民協働課 佐賀市こども家庭課 佐賀市子育て総務課 佐賀市DX推進課 乳児院みどり園 児童家庭支援センター絆 児童家庭支援センター明照 唐津市こども未来課 唐津市生活困窮者自立支援センター 唐津市社会福祉協議会 唐津市保育園 唐津北部地域自立支援協議会 玄海町こども保健課 玄海町社会福祉協議会 有田町こども未来課 江北町役場 白石町役場 嬉野市役所 鹿島市役所/鹿島市社会福祉協議会 独立行政法人国立病院機構佐賀病院 佐賀県立好生館 ホームスタートジャパン 認定こども園あかさかルンビニー園 おへそこども園 認定こども園そらいろこども園 コロナ保育園 b. 佐賀県での「こども宅食」の立ち上げ支援 佐賀や全国で「こども宅食」の立ち上げを検討している団体に対しての立ち上げ相談を実施。対象となる団体の状況に合わせた個別支援を実施。	a. 佐賀県内自治体・社協への事業説明 ①② 県庁へは毎月月1回訪問を継続 訪問先は左記の通り b. 「こども宅食」の立ち上げ支援 ①② 4/19、5/30 唐津市 2/10 佐賀市赤松町	24,933,209	22,354,115
	2. 普及ゼロ地域への働きかけ 24年度当初の段階で弊会の実施者ネットワーク加盟団体が無い7県を対象に、こども宅食の周知及び普及活動を展開。 結果、7県すべてでこども宅食実施団体が生まれ、47都道府県すべてにこども宅食実施団体が所在することとなった。 ◎具体的活動 ・各県で、社会的孤立に課題感を感じている団体や、こども宅食等に類似する事業を行う団体や県ネットワークの中心団体を調査 ・未加盟地域の社会福祉協議会及び自治体との連携 ・個別の声かけ ・活動実態に関するヒアリング ・加盟要望があった団体への加盟申請補助 ・岩手県における普及イベントの開催 3. 業界団体との協働 こども宅食の理解・応援者となる子ども支援、福祉業界の団体・個人の方々と出会い、協働を目指した。 ◎具体的活動 ①全国児童家庭支援センター協議会 役員（会長、事務局長）とのオンライン面談：年3回 九州地区会合に参加：年3回 九州におけるモデル事業（専門職×非専門職の連携）の実施（熊本県2か所） ②全国こども食堂支援センターむすびえ 理事との面談：年2回 寄付物品関係担当者との意見交換会：年3回 助成金実施担当者との意見交換会：年2回 適宜、情報交換と情報発信の連携 ③全国社会福祉協議会 地域福祉部との意見交換：年2回 助成金情報などの発信の連携 ④生活困窮者自立支援全国ネットワーク 全国研究交流大会への参加：年1回 こども・若者部会への参画 ⑤社会的養育地域支援ネットワーク 設立記念フォーラムへの参加 代表理事との意見交換：年1回 ⑥その他 ・「子ども・若者支援全国ネットワーク」立ち上げに向けた意見交換会参加	2. 普及ゼロ地域への働きかけ 7～8月：各県の状況調査 9～10月：各県の中核団体へのアプローチ、団体を紹介してもらう 11月：岩手県での普及イベント https://hiromare-takushoku.jp/2024/10/11/7429/ 11月：47都道府県へのこども宅食導入達成 https://hiromare-takushoku.jp/2024/11/27/7764/ 3. 業界団体との協働 4月 むすびえ訪問意見交換 6月 九州児童家庭支援センター協議会総会 8月 全社協訪問意見交換 9月 社会的養育地域支援ネットワーク設立記念フォーラム 9月 全国児童家庭支援センター協議会との意見交換 11月 むすびえイベントに登壇（居場所の解剖学：三股町） 11月 生活困窮者自立支援全国ネットワーク全国研究交流大会 通年 九州地区における児童家庭支援センターとのモデル事業		

②佐賀県や全国各地の団体にとり有用なノウハウ共有・伴走支援 ※経費は①に含まれる	1. 佐賀県内団体への個別伴走支援 ①目的 ・子ども宅食実施団体が活動において抱える課題や不安を把握し、必要に応じ全国他団体の課題ケースごとのノウハウや情報を提供することにより安心して活動を継続できるように後押しをすること。 ・県内団体と関係機関や企業が連携し地域に根付いた活動ができるように聞き取りをもとに提案を行うこと。 ・県内団体の個別伴走支援をすることで、佐賀県内の経済的に厳しい状況にある子どもの実態把握をおこない、佐賀県こどもの貧困対策検討会などでの提案につなげること。 ②対象者 佐賀県内19の実施団体 ③実施内容 a. 佐賀県内団体の運営サポート 県内で子ども宅食を実施する団体を個別訪問し、状況把握や活動継続にあたってのアドバイス等を実施 毎月、唐津エリアの団体は合同開催 7月 NPO法人のいちご会 9月 NPO法人こすもす村、NPO法人のいちご会 11月 児童家庭支援センター絆 12月 FUKUROU 12月 スマイルキッズ 12月 有田町社会福祉協議会 12月 にじいろぼけっと 1月 スマイルキッズ 1月 FUKUROU 2月 一社 隣友の会 2月 一社 こどもとねっと 3月 スチューデントサポートフェイス b. 佐賀県内の子ども支援活動のネットワーク会議等への参加 ア さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会の研修会 イ 佐賀県社会福祉協議会意見交換会 ウ 佐賀県こどもの貧困委員会 エ 南佐賀バルーナズ意見交換会 オ 難オヤモコモ妊婦からの支援についての検討会 カ さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会とのこども支援共有会 キ 佐賀県コスメギフトプロジェクト定例会議 ク さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会とのこども支援共有会 ケ 佐賀県コスメギフトプロジェクト定例会議 コ 佐賀食でつながるネットワーク協議会研修会 サ おへそ保育園視察、意見交換会 シ 佐賀県コスメギフトプロジェクト定例会議 ス 南佐賀バルーナズ意見交換会 セ 佐賀県スクールSW意見交換会 ソ みらいのそら保育園	個別伴走支援 a. 運営サポート ①実施日時 年間を通して随時 ②実施場所各団体訪問 b. 県内ネットワーク会議への参加 ①実施日時 ア 7/4 イ 7/18 ウ 8/28 エ 9/11 オ 9/12 カ 10/2 キ 10/30 ク 11/27 ケ 12/27 コ 1/22 サ 1/16 シ 2/3 ス 3/18 セ 3/26 ソ 3/28 ②実施場所 ア 佐賀市天神1-4-15 イ 佐賀市天神1-4-15 ウ 佐賀市城内 エ 佐賀市白山2-3-16 オ 佐賀市西魚町7-1-3 カ 佐賀市本庄町本庄13-1 3 キ 佐賀市天神1-4-15 ク 佐賀市本庄町本庄13-1 3 ケ 佐賀市天神1-4-15 コ 佐賀市天神アバンセホール ル サ 佐賀市水ヶ江1-6-3 2 シ 佐賀市天神1-4-15 ス 佐賀市白山2-3-16 セ 佐賀市大和町 ソ 佐賀市高木瀬町長瀬24 90-1		
	2. こども宅食カレッジプロジェクト ①目的 ネットワーク加盟団体がともに学び、つながる環境を整えるため、応援団からの場の提供とともに団体からの自由な発信やアイデアが生まれる仕組みを創出する。 ②対象者 佐賀県団体を含む全国のネットワーク加盟団体 ③実施内容 a. 必要なノウハウ研修 県内勉強会 テーマ「地域で支える命のはじまり」@佐賀 参加人数：83名 全国勉強会① こども宅食カレッジを実施 テーマ「活動に役立つチャットGPT」 参加人数：25名 全国勉強会② テーマ「官民連携によるアウトリーチ支援を考えるセミナー」 参加人数：370名 b. 立ち上げ相談会 各回30分程度の個別相談会を実施 参加人数：14団体 c. 宅食シェア会 2024年12月18日13時～14時半 オンライン開催 テーマに基づき加盟団体から事例紹介をしてもらい、参加者同士で自由な議論を行う。 テーマ「こども宅食を支える仲間づくり・地域の巻き込み力」 登壇者：野尻富美（福井県） 参加人数：8人 d. 宅食カフェ こども宅食実施者ネットワーク加盟団体同士のつながりを広げ、深める場づくり。テーマにそって座談会を実施。同じ悩みをもつ団体同士がそれぞれに課題解決のヒントをもちより、意見を交換しあい、団体同士のつながりを創る場として設定。 各月1回 18時～19時半 オンライン開催 テーマ 第1回「夏の終わりの夕涼みお悩み持寄り会」 第2回「どうしますか？ 支援家庭との距離感・スタッフとの情報共有」 第3回「新年会で語っちゃおう」 第4回「発信の工夫・思いの伝え方」 参加人数：25人 e. メルマガ配信 ネットワークへの加盟意識の向上、様々な情報に触れることで宅食への熱量を高めてもらう 毎月1回発行（8月初回発行～3月 計8回）	2. こども宅食カレッジPJ a. ノウハウ研修 県内勉強会 日時：1/24 場所：佐賀市天神1丁目4-15 全国勉強会① 日時：6/14 場所：オンライン 全国勉強会② 日時：1/28 場所：オンライン b. 立ち上げ相談会 ①実施日時 6/25 8/27 10/23 2/25 ②実施場所 オンライン c. 宅食シェア会 ①実施日時 計1回開催 ②実施場所 オンライン c. 宅食カフェ ①実施日時 18時～19時半 8/27 10/22 1/31 3/18 計4回開催 ②実施場所 オンライン d. メルマガ配信 ①実施日時 8/14 計8回発行 ②実施場所 メール	①の内数	①の内数

③社会課題・活動状況の発信とふるさと納税のためのファンドレイズ	①目的 マスメディアやオウンドメディアを通した発信を通じて、佐賀県内の団体をはじめとする子ども宅食実施団体の活動を広くアピールし、理解と共感を呼ぶことで ・子ども宅食実施者への協力者・寄付者を増やす ・子ども宅食を実施したいという支援者を増やし、孤立する家庭を減らすことに寄与する。 ②対象者 一般市民（寄付者を含む） ③実施内容 a. 全国の加盟団体の活動広報 公式HPにある全国の加盟団体の一覧ページの検索性を向上させ見やすいデザインへと改修し、団体情報がよりわかりやすく伝わるよう工夫した。 https://hiromare-takushoku.jp/activity/ そのほか、ミッションインタビュー・団体へのインタビューを記事化し全国へと発信。 ・子ども宅食応援団、新たなビジョン・ミッションを策定。「孤立を生まない社会」を、皆さんと共に創ります https://hiromare-takushoku.jp/2024/11/01/7628/ ・「子ども宅食」の力に確信をもっている。子どもを、みんなで見守る社会へ：子ども宅食応援団の常務理事、原水敏 https://hiromare-takushoku.jp/2024/10/28/7572/ ・「官民で一緒に子どもを育てる。地域の中に「ケアとチア」がある社会とは：社会的養育総合支援センター―陽統括所長／全国児童家庭支援センター協議会 会長の橋本達昌さん https://hiromare-takushoku.jp/2024/12/26/8139/ ・一般社団法人沖縄多胎ネット 子ども宅食便（沖縄県豊見城市） https://hiromare-takushoku.jp/2024/08/06/7179/ ・NPO法人 みんなで子育てドロップス「ドロップスの子育てフードパントリー」（岐阜県恵那市） https://hiromare-takushoku.jp/2024/10/22/7440/ ・一般社団法人小豆島子ども・若者支援機構「小豆島子ども宅食」（香川県小豆島町） https://hiromare-takushoku.jp/2025/03/03/8474/ b. 【#孤立を生まない】社会特集記事発信 子ども宅食を通じて出会った、アウトリーチを必要とする子育て家庭の実情や、活動開始のきっかけ・思いなどを深堀りインタビューし、記事を発信 ・社会の注目が集まる11月から実施（虐待防止月間11月、寄付月間12月） 【発信記事】 ・子ども宅食応援団は【#孤立を生まない社会】特集企画を始めます https://hiromare-takushoku.jp/2024/11/15/7682/ ・「あったかい関心をよせ続ける」ほしくま児童家庭支援センター(福島県郡山市) https://hiromare-takushoku.jp/2024/12/20/8089/ ・「子ども達の生きる力となるように」特定非営利活動法人Creer クレール子ども食堂 宅食便(徳島県徳島市) https://hiromare-takushoku.jp/2024/12/23/8194/ ・クリスマスに届ける 地域の温かな支援 「つながりで、一人でも多くの笑顔を」 みんなの広場気楽(大阪府堺市) https://hiromare-takushoku.jp/2024/12/25/8288/ ・クリスマスに届ける地域の温かな支援 「繋がりをもち続けることが孤立を防ぐ」 NPO法人えんまる「子ども宅食えんまる便」(長野県長野市) https://hiromare-takushoku.jp/2024/12/24/8238/ ・「助けて」が言えるように 子ども宅食 赤ちゃん便 https://hiromare-takushoku.jp/2024/11/22/7727/ c. 「現場のリアル」を伝える動画作成 子ども宅食の実施団体および利用家庭取材し、公開されにくい子ども宅食の活動現場/関係者の声を映像化 動画：https://youtu.be/iklERnECe_0 d. 定期的な寄付者への成果報告 (1)活動の様子、成果を伝える記事の作成・発信 (2)メールマガジン配信 (3)アニュアルレポートの作成・送付	a. 団体の活動広報発信 ①実施日時 年8回 ②実施場所 HPやSNSでの配信 b. 【#孤立を生まない】社会特集記事発信 ①実施日時 11-12月 ②実施場所 HPやSNSでの配信 c. 「現場のリアル」を伝える動画作成 ①実施日時 9月-12月 ②実施場所 オンライン d. 寄付者への成果報告 ①実施時期 (1)記事作成：月1-2団体 (2)メール：月1回以上 (3)アニュアル：年1回 ②実施場所 公式HP・メール・郵送	8, 121, 374	8, 121, 374
--	--	--	--------------------	--------------------

④事業継続に向けた環境整備及び他の全国組織・企業との連携 ※経費は①に含まれる	①目的：県内及び全国の団体に対して、支援家庭向けの食品等支援物資を充足する。 ②対象者：佐賀県及び全国のこども宅食実施団体（佐賀県18団体を含む全国150-200団体） ③実施内容 a. こども宅食まんぷくライダー（2024年12月からの事業） 佐賀市を中心とした寄付食品の受取と、佐賀県内のこども宅食団体への配送 12/10 フードバンクで宅食4団体への離乳食の仕分け作業 12/15 スマイルキッズへの配送 12/18 こどもとねっと、ここてらすへの配送 12/20 にじいろぼけっとへの配送 12/24 こすもす村、のいちご会、有田町社会福祉協議会への配送 12/25 唐津市社会福祉協議会への配送 1/17 のいちご会への配送 1/21 FUKUROUへの物品配布 1/23 セントラル倉庫で物品搬入作業 1/24 ハッピーキッズへの配布 1/31 唐津市社会福祉協議会への配送 2/10 有田町社会福祉協議会への配送 2/19 シビックフォース物品配布会 2/20 FUKUROUへの物品配布 3/11 玄海庁舎でのBABYBOXの仕分け 3/21 隣友の会への配送 3/26 FUKUROUへの物品配布 b. 政策提言に関する諸活動（「こども宅食議連」およびフローレンスと連携） ・こども宅食を始めとする子どもを対象とするアウトリーチ支援に対する支援拡充の訴求 ・政府備蓄米交付制度のこども宅食での活用しやすさ・利用可能量の向上 ・こども家庭庁への各種事業（支援対象児童等見守り強化事業、ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業）の継続と改善依頼 c. 食品ロス問題や食品寄付などCSR活動に積極的な企業との連携 （1）食品メーカーと連携した緊急食支援： ・国内最大級の食品卸との連携により（プロジェクト呼称『こどもフードアライアンス』）昨年同規模30万食を全国一寄配布。 ・7-11月実績では、24社から協賛を得て、延べ250団体を通じて延べ2.2万世帯に支援。 ・この他に、明治HDからも5000食を超える寄贈があり、全国に提供。 （2）全国ネットワークをもつ企業との地産地消型支援： ・㈱ローソン東北支社との連携により、社員および支店でフードドライブを開催 ・農林水産省の政府備蓄米の無償交付制度の大幅な改善に伴い地域団体向けの解説を提供 ・デジタルシティよりプリンターやTVモニターなど大型OA機器の寄贈 （3）佐賀県内での食品等を通じた地域連携強化： ・県庁が通年実施する学用品ドライブの佐賀団体への定期的な寄贈 ・Civic Forceが募集する物品の佐賀団体への配布。企業と連携した乳児向けプレゼントの企画（「赤ちゃんBOX」他） ・県庁のコスメバンク推進室と連携した佐賀県でのコスメを通じた保護者応援プロジェクトの推進 ・佐賀市のバスケットボールチーム バルーンズの観戦チケット50名分の寄贈（2月の試合） ・こども宅食赤ちゃん便の研修に江崎グリーコから液体ミルクの寄贈（1月） （4）全国こども宅食団体に対する優良な寄付/助成案件の紹介 ・グループ法人のフローレンスがローンチした体験格差解消プラットフォームを首都圏のこども宅食利用家庭にチケットやプログラムへの参加機会を提供 ・他団体等で企画された案件を選別して情報提供 例：㈱YSC社のお米の寄贈を都内の団体に紹介するなど。 d. 相談支援事業を行う地域団体・全国組織との意見交換 ・食支援の全国中間支援団体との意見交換（むすびえ／全国フードバンク推進協議会／全国食支援活動協力会など） ・子ども支援におけるアウトリーチ事業に関する意見交換（生活困窮者自立支援全国ネットワーク 一般社団法人日本伴走型支援協会 社会的養育地域支援ネットワーク など）	a. こども宅食まんぷくライダー ①実施時期 12月－3月 ②実施場所 佐賀県内各所 b. 政策提言 ①実施時期 4月17日 於：こども宅食議員連名会議を衆議院第二議員会館で開催 c. 企業連携 ①実施時期 （1）食品卸との大型支援： 5月、7月、11月、2月に全国へ食品寄付で支援提供 （2）地産地消型支援： ・7月と12月に青森・福島・山形の各団体へ寄贈 ・10月と12月に政府備蓄米の解説を提供 ・8月にOA機器を寄贈 （3）佐賀県内の地域連携： ・毎月 学用品ドライブ ・xx月 佐賀県コスメバンク推進プロジェクト ・1月 江崎グリーコ ・2月 株式会社佐賀バルーンズ観戦チケット ・2月 株式会社宝島社 kippisbabybox （4）全国こども宅食団体に対する優良な寄付/助成案件の紹介 ・8月体験格差解消のための機会提供 ・1月にYSC社のお米 d. 全国組織との意見交換 ・随時	①の内数	①の内数
	⑤その他	上記の活動を行うための法人運営等の事務局運営（財務会計・バックオフィス、IT業務委託費、オフィス費用、弁護士・税理士費、その他運営費（支払手数料、事務用品費、新聞図書費、諸会費、保険料、租税公課、通信費等））		
	計		38, 673, 638	36, 094, 544

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位: 円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位: 円]
こども宅食実施のための 助成、伴走支援事業	上記①～④と同じ ※上記に加え、こども宅食実施団体の活動継続及び立ち上げ助成事業を拡充	①通年 ②佐賀を中心とした全国	48,283,036	48,283,036
計			48,283,036	48,283,036

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)			84,377,580
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A		18,101,975
		本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	17,558,125
		前年度控除額(県事務経費)還付分	543,850
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B		66,275,605

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)			36,094,544
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a		28,997,831
		ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	7,096,713
		返礼品等の調達に係る費用	0
		返礼品等の送付に係る費用	0
		広報に係る費用	2,165,839
		事務に係る費用	4,930,874

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)			48,283,036
------------------------------	--	--	------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://hiomare-takushoku.jp/team/>